

受益者の皆様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「資源ツインαファンド（通貨選択型）トルコリラコース」は、第45期から第50期の決算を行いました。

当ファンドは外国投資信託「資源ツインアルファ トルコリラファンド」を通じて、直接、原油先物、金先物への投資やオプション取引を行わず、J P モルガン チェースバンク N. A. ロンドン支店、もしくは J. P. モルガンに属する金融機関を相手方とする担保付スワップ取引を活用して、資源カバードコール戦略（原油カバードコール戦略と金カバードコール戦略を組み合わせた戦略）および通貨カバードコール戦略とトルコリラ買い／米ドル売りの為替取引の損益の合計に連動する投資成果の享受と、安定した配当収入の確保と値上がり益の獲得を目指して運用を行います。当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。

ここに運用状況をご報告申し上げます。今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドは、約款において運用報告書（全体版）を電子交付することが定められています。運用報告書（全体版）については下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

<閲覧方法>

右記URL⇒ファンド情報⇒当ファンド名を選択⇒各種資料のダウンロード⇒「運用報告書（全体版）」を選択

資源ツインαファンド （通貨選択型） トルコリラコース

商品分類（追加型投信／海外／
その他資産（原油先物取引・金先物取引））

第9作成期

第45期（2019年2月25日） 第48期（2019年5月27日）
第46期（2019年3月25日） 第49期（2019年6月25日）
第47期（2019年4月25日） 第50期（2019年7月25日）

作成対象期間：2019年1月26日～2019年7月25日

| 第50期末（2019年7月25日） | |
|-------------------|--------|
| 基準価額 | 873円 |
| 純資産総額 | 259百万円 |
| 第45期～第50期 | |
| 騰落率 | 0.6% |
| 分配金合計 | 30円 |

（注）騰落率は収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

T&Dアセットマネジメント株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先

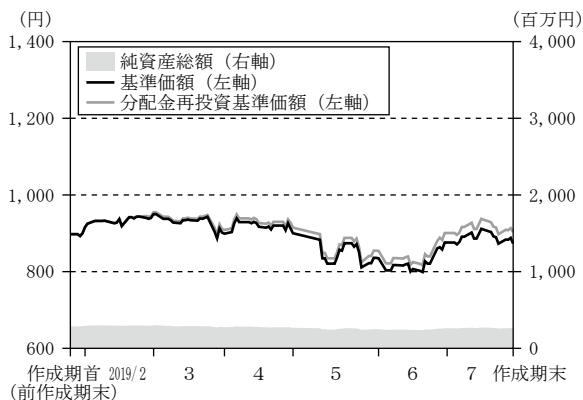
投信営業部 03-6722-4810

（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

<https://www.tdasset.co.jp/>

運用経過

基準価額等の推移



第45期首：898円

第50期末：873円（既払分配金30円）

騰落率：0.6%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2019年1月25日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

基準価額の主な変動要因

主に外国投信「資源ツインアルファ トルコリラファンド」へ投資した結果、原油先物価格が上昇したことを主因に、基準価額（分配金再投資ベース）は上昇しました。

■ 組入ファンドの当作成期中の騰落率

| 組入ファンド | 騰落率 |
|---------------------|------|
| 資源ツインアルファ トルコリラファンド | 1.0% |
| T&Dマネープールマザーファンド | △0.0 |

1万口当たりの費用明細

| 項目 | 第45期～第50期 2019/1/26～2019/7/25 | | 項目の概要 |
|-----------|----------------------------------|---------|---|
| | 金額 | 比率 | |
| 平均基準価額 | 896円 | | 作成期間の平均基準価額です。 |
| (a) 信託報酬 | 4円 | 0.487% | (a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 |
| （投信会社） | (2) | (0.204) | 委託した資金の運用の対価 |
| （販売会社） | (2) | (0.268) | 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 |
| （受託会社） | (0) | (0.016) | 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価 |
| (b) その他費用 | 0 | 0.007 | (b) その他費用＝作成期間のその他費用／作成期間の平均受益権口数 |
| （監査費用） | (0) | (0.007) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| （その他） | (0) | (0.000) | その他は、金銭信託に係る手数料 |
| 合計 | 4 | 0.494 | |

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

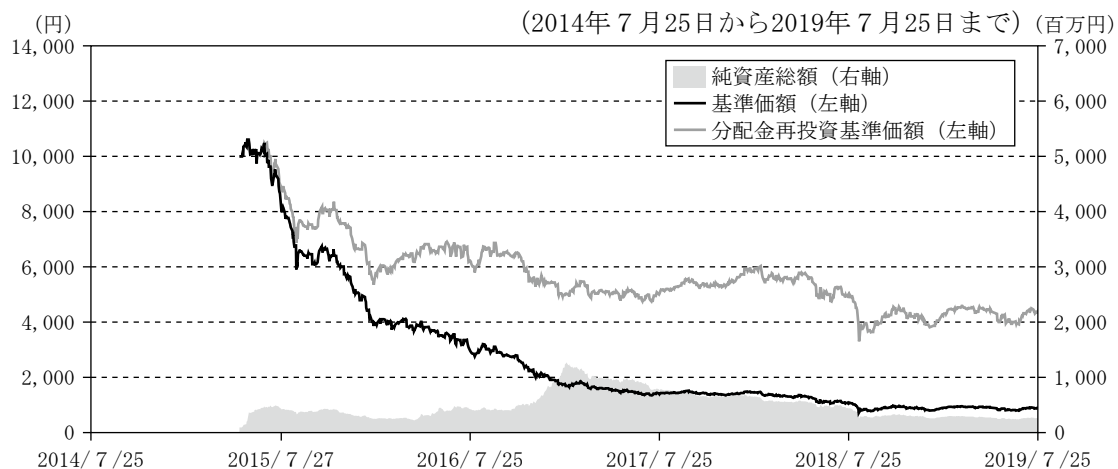
なお、その他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）が支払った費用を含みません。

(注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注) 分配金再投資基準価額は、設定日(2015年5月8日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

| | 2015年5月8日 設定日 | 2015年7月27日 決算日 | 2016年7月25日 決算日 | 2017年7月25日 決算日 | 2018年7月25日 決算日 | 2019年7月25日 決算日 |
|-------------------|------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額(分配落) (円) | 10,000 | 8,100 | 2,955 | 1,392 | 1,052 | 873 |
| 期間分配金合計(税込み) (円) | — | 800 | 2,950 | 1,130 | 335 | 60 |
| 分配金再投資基準価額の騰落率(%) | — | △ 11.6 | △ 29.7 | △ 19.3 | △ 2.8 | △ 11.2 |
| 純資産総額 (百万円) | 92 | 420 | 419 | 761 | 432 | 259 |

- (注) 当ファンドは、特定の指数に連動すること・指数を上回ることを目的として運用していないため、また、運用方針に対し適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。
- (注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

投資環境

■ 原油市場

当作成期に原油先物価格は小幅に上昇しました。

作成期初から2019年4月半ばにかけては、米中貿易交渉の進展期待やOPEC（石油輸出国機構）と非OPEC加盟国の協調減産延長期待、米国の週間統計における原油在庫の減少や米国によるイラン産原油禁輸制裁に対する一部対象国への適用除外の中止などを材料に、原油需給の逼迫が意識され上昇しました。6月上旬にかけては、米国が対中関税の引き上げや中国企業ファーウェイへの輸出禁止制裁発表に加え、メキシコへの関税賦課を行う方針を示すなど、貿易摩擦の激化が世界景気の減速懸念を高め、大きく下落しました。6月下旬にかけては、対メキシコ関税の見送りや米中首脳会談の開催などを背景に貿易摩擦に関する過度な懸念が後退し、中東からのエネルギー輸送の重要ルートに位置するホルムズ海峡におけるタンカー襲撃事件を発端に米国とイラン間の緊張が高まったことなどから、反発上昇しました。作成期末にかけては、引続き中東の地政学リスクが意識される一方で、貿易摩擦などを背景とした世界景気の鈍化による原油需給の悪化懸念などが上値を抑え、もみ合って推移する展開となりました。

■ 金市場

当作成期に金先物価格は上昇しました。

作成期初から2019年5月中旬にかけては、米中貿易交渉に関する強弱分かれる報道内容や、各種景気指標の発表内容を受けた米ドル相場の影響を受けつつも、狭いレンジ内での推移が続きました。5月下旬から作成期末にかけては、市場予想を下回る米景気指標を背景に市場の利下げ期待が高まり、6月のFOMC（米連邦公開市場委員会）後のパウエル議長の声明において、先行き不透明感が増していることが指摘されたことから早期の利下げ観測が加速し、米ドル安が進行したことを背景に金先物価格は大幅に上昇しました。

■ 米ドル／円

当作成期に米ドル（対円）相場は円高米ドル安となりました。

作成期初から2019年3月上旬にかけては、好調な米景気指標や株式市場の推移を背景に円安米ドル高が進行しました。3月中旬は、市場予想を下回る米雇用統計やFRB（米連邦準備制度理事会）による金融引き締め観測後退を受けた米長期金利の低下などを材料に、一転円高米ドル安となりました。3月下旬から4月中旬にかけては、米中貿易交渉の進展期待や引続き好調な株式市場が好感され円安米ドル高となりました。4月下旬から6月にかけては、米国を中心とした貿易摩擦激化への懸念やFRBによる金利引き下げ観測などを背景に米長期金利が低下したことから、米ドルは大きく下落しました。その後作成期末にかけては、米中貿易交渉の行方や7月末に開催されるFOMCで決定される政策金利水準に対する予測、中東地域での地政学リスクの高まりなど様々な要因に影響され、上下に振れる展開となりました。

■ トルコリラ／米ドル

当作成期にトルコリラ（対米ドル）はトルコリラ安米ドル高となりました。

作成期初から2019年3月半ばにかけては、世界景気の鈍化懸念などが嫌気され軟調な推移が続きました。3月下旬には、トルコ国内の統一地方選挙を控え政策不透明感が広がったことから一時大きく下落、その後はトルコ中央銀行の市中銀行に対する借入金利の引き上げ措置や、政府による海外投資家のトルコリラ空売り防止を目的とした流動性引き締め指示を受け乱高下するなど不安定な推移となりました。4月から5月上旬にかけては、高止まりする国内インフレ率やロシア製ミサイル防衛システム購入計画を巡る対米関係悪化懸念、3月末に実施されたイスタンブール市長選の再実施発表などが嫌気されトルコリラ安が進行しました。5月中旬以降は、米長期金利の低下を背景とした米ドル安の進行やイスタンブール市長選再選挙において野党候補が再び勝利したことなどが好感され上昇基調で推移しましたが、作成期末にかけては、ロシア製ミサイルシステムの搬入開始を背景に対米関係の緊張が高まり、米国による経済制裁発動への不安などから上値の重い展開となりました。

■ 国内短期金融市況

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、作成期首の $\Delta 0.21\%$ から作成期末は $\Delta 0.13\%$ となりました。作成期中においては、需給悪化懸念や日銀の国庫短期証券買入オペ動向を巡る不透明感などが金利上昇要因となり、海外勢による需要や担保需要などが金利低下要因となりました。

当該投資信託のポートフォリオ

■ 当ファンド

作成期を通じて、「資源ツインアルファ トルコリラファンド」を概ね高位に組入れ、残りの資産につきましては「T&Dマネープールマザーファンド」およびコールローン等で運用を行いました。

■ 資源ツインアルファ トルコリラファンド

主として米ドル建政府債等の現物資産へ投資する一方で、担保付スワップ取引を活用して、資源カバードコール戦略（米ドル建ての原油先物および金先物の価格変動とそれぞれのオプション取引を組み合わせた戦略）、通貨カバードコール戦略（米ドル（対円レート）の為替変動とオプション取引を組み合わせた戦略）、トルコリラ買い米ドル売りの為替取引を組み合わせた運用を行いました。

■ T&Dマネープールマザーファンド

国庫短期証券の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、作成期を通じて組入比率は0%としました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

分配金

1万口当たりの分配金（税込み）は基準価額水準等を勘案し、第45期から第50期まで各5円とさせていただきます。収益分配に充てなかった利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

| 項目 | 第45期 | 第46期 | 第47期 | 第48期 | 第49期 | 第50期 |
|-----------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| | 2019年1月26日 ～2019年2月25日 | 2019年2月26日 ～2019年3月25日 | 2019年3月26日 ～2019年4月25日 | 2019年4月26日 ～2019年5月27日 | 2019年5月28日 ～2019年6月25日 | 2019年6月26日 ～2019年7月25日 |
| 当期分配金 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| （対基準価額比率） | 0.529 | 0.550 | 0.545 | 0.605 | 0.575 | 0.569 |
| 当期の収益 | 5 | 5 | 5 | 5 | 3 | 3 |
| 当期の収益以外 | — | — | — | — | 1 | 1 |
| 翌期繰越分配対象額 | 892 | 893 | 894 | 894 | 893 | 892 |

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

（注）投資信託の計理上、翌期繰越分配対象額が基準価額を上回っている場合がありますが、基準価額を超える分配金をお支払いすることはありません。

今後の運用方針

■ 当ファンド

「資源ツインアルファ トルコリラファンド」および「T&Dマネープールマザーファンド」を主要投資対象として運用を行います。

■ 資源ツインアルファ トルコリラファンド

主として米ドル建政府債等の現物資産へ投資する一方で、担保付スワップ取引を活用して、資源カバードコール戦略（米ドル建ての原油先物および金先物の価格変動とそれぞれのオプション取引を組み合わせた戦略）、通貨カバードコール戦略（米ドル（対円レート）の為替変動とオプション取引を組み合わせた戦略）、トルコリラ買い米ドル売りの為替取引を組み合わせた運用を行います。

■ T&Dマネープールマザーファンド

日本経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、緩やかな回復が続くことが期待されます。インフレ率は緩やかに上昇していくことが見込まれるものの、依然、基調的なインフレ圧力は弱く、インフレ期待が急速に高まる可能性は低いとみられます。こうしたなか、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は低位で推移すると予想します。

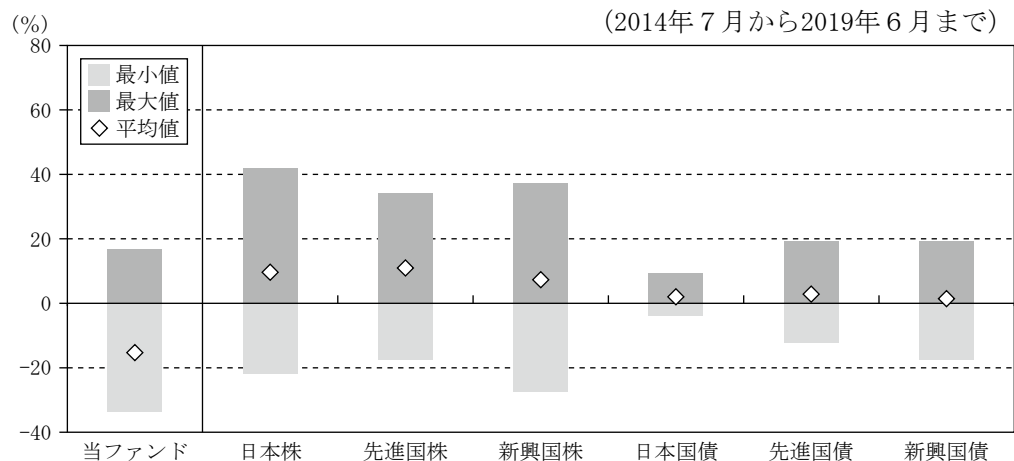
相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、国庫短期証券や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

当該投資信託の概要

| | | |
|--------|---|---|
| 商品分類 | 追加型投信／海外／その他資産（原油先物取引・金先物取引） | |
| 信託期間 | 2015年5月8日から2021年7月26日まで | |
| 運用方針 | 安定した配当収入の確保と値上がり益の獲得を目指して運用を行います。 | |
| 主要運用対象 | 円建ての外国投資信託証券である「資源ツインアルファ トルコリラファンド」および親投資信託である「T&Dマネープールマザーファンド」を主要投資対象とします。 | |
| | 資源ツインアルファ トルコリラファンド | <p>主として米ドル建政府債を投資対象とします。 J PモルガンチェースバンクN. A. ロンドン支店、もしくはJ. P. モルガンに属する金融機関をカウンターパーティとしたスワップ取引を行います。担保付スワップ取引を通じて、実質的に下記の各戦略を組み合わせた投資成果の享受を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米ドル建の原油先物取引への投資と原油オプション取引を組み合わせた戦略（原油カバードコール戦略）と米ドル建の金先物への投資と金オプション取引を組み合わせた戦略（金カバードコール戦略）の投資成果の享受を目指します。 ・米ドル（対円レート）の為替変動とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の投資成果の享受を目指します。 ・トルコリラ買い／米ドル売りの為替取引を行い、米ドルに対するトルコリラの為替差益と為替取引によるプレミアムの享受を目指します。 |
| | T&Dマネープール マザーファンド | わが国の国債および公社債ならびに短期金融商品を主要投資対象とします。 |
| 組入制限 | 投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 外貨建資産への直接投資は行いません。 | |
| | 資源ツインアルファ トルコリラファンド | 店頭オプション、上場オプション、ETFに原則として直接投資を行いません。 有価証券の空売りは行いません。 |
| | T&Dマネープール マザーファンド | 株式への投資は行いません。 外貨建資産への投資は行いません。 |
| 分配方針 | 毎決算時（毎月25日、休業日の場合は翌営業日）に分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。 分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定するものとし、原則として、利子・配当等収益を中心に分配を行うことを目指します。ただし、基準価額水準等によっては、売買益（評価益を含みます。）が中心となる場合があります。 | |

【参考情報】

■ 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 平均値 | △15.3 | 9.7 | 11.0 | 7.3 | 2.0 | 2.8 | 1.4 |
| 最大値 | 16.8 | 41.9 | 34.1 | 37.2 | 9.3 | 19.3 | 19.3 |
| 最小値 | △33.6 | △22.0 | △17.5 | △27.4 | △4.0 | △12.3 | △17.4 |

(注) 上記は、2014年7月から2019年6月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) 当ファンドおよび代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものであり、全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 騰落率は直近月末から60ヵ月遡って算出した結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(注) 当ファンドは2015年5月8日に設定されたため、2016年5月以降のデータをもとに表示しております。

○各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株・・・MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI 国債

先進国債・・・FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

※詳細は後述の「指数に関して」をご参照ください。

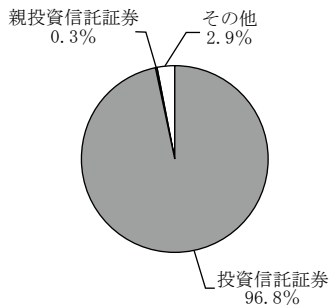
当該投資信託のデータ

当該ファンドの組入資産の内容

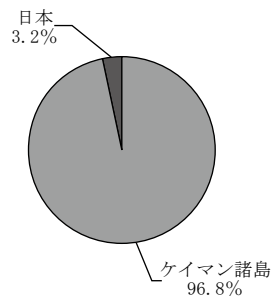
■ 組入（上位）ファンド（銘柄）

| 銘柄名 | 第50期末 |
|---------------------|------------|
| | 2019年7月25日 |
| | 比率 |
| 資源ツインアルファ トルコリラファンド | 96.8% |
| T&Dマネープールマザーファンド | 0.3% |
| その他 | 2.9% |

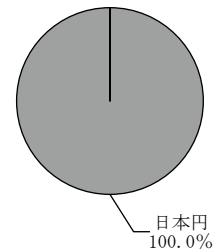
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



(注) 組入（上位）ファンド（銘柄）および各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 国別配分は発行国を表示しております。

※詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）をご覧ください。

純資産等

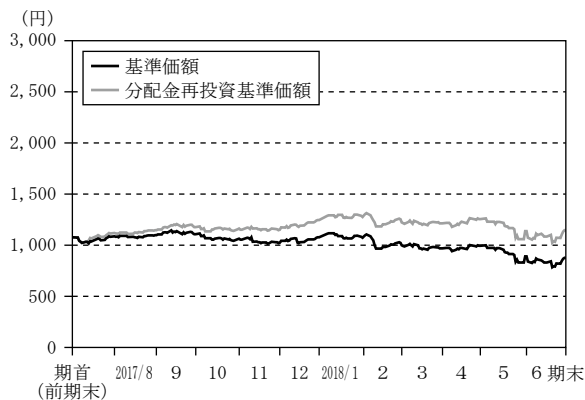
| 項目 | 第45期末 | 第46期末 | 第47期末 | 第48期末 | 第49期末 | 第50期末 |
|------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | 2019年2月25日 | 2019年3月25日 | 2019年4月25日 | 2019年5月27日 | 2019年6月25日 | 2019年7月25日 |
| 純資産総額 | 296,828,223円 | 277,362,129円 | 272,391,476円 | 245,624,946円 | 257,880,678円 | 259,656,338円 |
| 受益権総口数 | 3,157,433,559口 | 3,068,865,844口 | 2,982,022,803口 | 2,988,783,691口 | 2,983,101,037口 | 2,973,719,116口 |
| 1万口当たり基準価額 | 940円 | 904円 | 913円 | 822円 | 864円 | 873円 |

(注) 当作成期間（第45期～第50期）中における追加設定元本額は87,653,119円、同解約元本額は302,175,060円です。

組入上位ファンドの概要

資源ツインアルファ トルコリラファンド（2017年7月1日から2018年6月30日まで）

■ 基準価額の推移



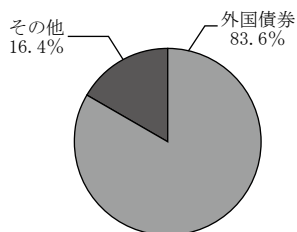
(注) 分配金再投資基準価額は、期首（2017年6月30日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

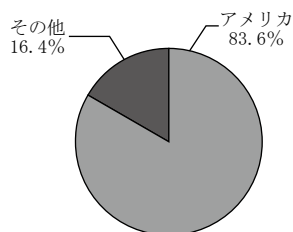
■ 1口当たりの費用明細

1口当たりの費用明細に相当する情報がないため、開示することができません。

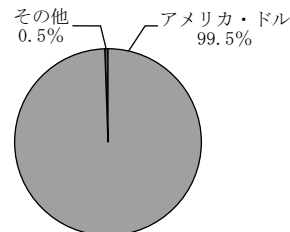
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



(注) 組入銘柄、スワップ取引の状況および各配分のデータは直近の決算日現在のものです。日付は現地基準です。

(注) 組入銘柄、スワップ取引の状況および各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄、スワップ取引の状況および各配分は J P モルガン証券株式会社より入手した情報をもとに作成しております。

※詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）をご覧ください。

■ 組入銘柄

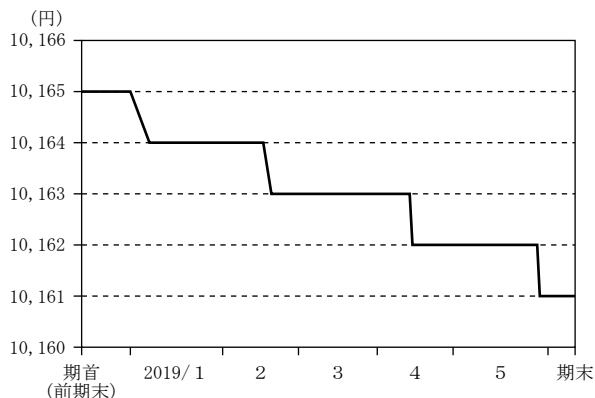
（組入銘柄数：2銘柄）

| 銘柄名 | 利率 | 償還日 | 比率 |
|------------------|----|----------|-------|
| US TREASURY BILL | —% | 2018/7/5 | 60.7% |
| US TREASURY BILL | — | 2018/9/6 | 22.8 |

■ スワップ取引の状況

| 想定元本額 | 評価額 | 比率 |
|----------------|--------------|--------|
| 4,656,207,035円 | △53,518,444円 | △11.1% |

■ 基準価額の推移



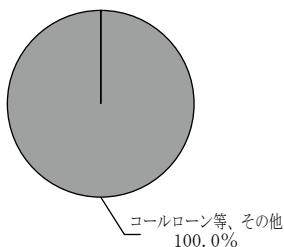
■ 組入銘柄

当期末における組入れはありません。

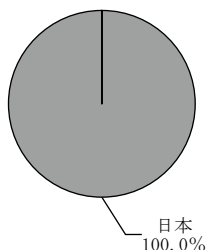
■ 1万口当たりの費用明細

| 項目 | 当期 | |
|----------------|----------------------|-------------------|
| | 2018/12/11~2019/6/10 | |
| | 金額 | 比率 |
| 平均基準価額 | 10,163円 | |
| その他費用 (その他) | 0円 (0) | 0.003% (0.003) |
| 合計 | 0 | 0.003 |

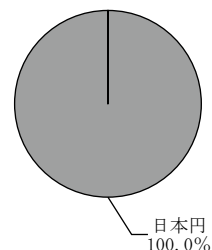
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



(注) 各配分のデータは直近の決算日現在のものです。

(注) 各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 国別配分は発行国を表示しております。

(注) 1万口当たりの費用明細は直近の決算期のものです。その他費用のその他は、金銭信託に係る手数料です。

※詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)をご覧ください。

指数に関して

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）とは、東証第一部上場全銘柄の時価総額を基準時の時価総額で除して算出したわが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する一切の知的財産権その他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。

MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスはMSCIが開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国の株式市場の動きを捉える指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した新興国の株式市場の動きを捉える株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。

NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、日本で発行されている公募利付国債の市場全体を表す投資収益指数です。その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスを用いて行われるT&Dアセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPMorganGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPMorganGBI-EMグローバル・ディバーシファイドは、JPMorgan社が算出し公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJPMorgan社に帰属します。